

滋賀県断酒同友会42周年記念例会開催

令和元年5月3日滋賀県断酒同友会42周年記念例会が令和最初の連休の中、行政、医療、朋友、病院入院中の仲間、一般参加含め230名の参加のもと県立男女共同参画センターで開催された。甲賀支部長 倉田治喜氏の司会で始まり、開会のことば 北見副会長、断酒の誓いを信楽支部 松本宇巳男氏、心の誓い 甲賀支部 中川勝喬氏、家族の誓い 信楽支部 洞正子さんが行った。続いて松本会長が新任のあいさつと連休の中参加頂いたお礼の言葉があった。宮崎近畿ブロック長からは新松本会長のもと頑張りましょうと激励を受けた。体験談は前半で家族3名の体験発表があった。家族の立場から甲賀支部 倉田麻美さん、甲賀支部 松本澄子さん、甲賀支部 青木厚子さんが語られた。家族の立場からは「10年前に、平成20年 主人は意識がなくなり、救急車で病院へ運ばれ『劇症肝炎』と診断されました。生死の境をさまよい、両親、息子に多くの心配をかけました。『これでもうお酒を止めてくれる』と思ったのも束の間、健康な体にしてもらい退院した主人は、暫くするとまた、飲み始めていました。本人は会社へ行こうと思って家を出るものの、会社の前を通り過ぎて帰ってくる。そしてお酒に逃げる。1日に3回もお酒を買いに行き、寝室にこもって飲み続ける。またうつ病の診断書を書いてもらって休職する。その繰り返しでした。そんな私たちが断酒会に入会し、『断酒継続』という目標に向かって学び歩んでいること、本当に良かったと思っています」と語られた。続いて、来賓紹介があった。草津保健所 主査 寺田保健師、精神医療センター 病院長 大井先生、いわくら病院 大浦先生、安東医院 安東毅院長、新阿武山病院 亀ノ上ケースワーカー、小谷クリニック 岩田ケースワーカー、各位来賓より祝辞を頂いた。休憩の後、祝電披露が行われ、後半の体験談で本人の立場から信楽支部 樋口重則氏、本人の立場から甲賀支部 古井戸浩氏、家族の立場から大津支部 木村賢司氏の体験発表があった。全国京都大会、近畿ブロック三重大会アピールがあり、朋友断酒会紹介、閉会のことば、連鎖握手、万歳三唱で散会となった。語られる体験談に共感し断酒の力を得た実りある記念例会でした。 (記・西浦)

